

キッズラボで博士気分！

高知県立牧野植物園 植物研究交流センター『ラボテラス』



※RC:鉄筋コンクリートの略

CLTでパワーアップ

高知県立牧野植物園内に、地上3階建ての植物研究交流センターがあります。愛称は『ラボテラス』。植物の研究を進めるだけでなく、研究者と来園者の交流を深めることを目的につくられました。

研究施設のある1階と2階部分は耐震性を重視したRC造で、レストランとショップのある3階の木造部分をしっかり支える仕組みになっています。木材は県産材をふんだんに使用。高知県で育った木は高知県の環境に一番適した木であり、伐採して使用することで、県内の森林の若返りにつながっています。

木が育む植物研究の未来

「ここは植物園ですので、来園者を温かく迎え入れるというコンセプトのもとに、植物である木のぬくもりを活かした造りになっています。」と、薬学博士でもある川原園長はいます。県産のスギやヒノキがふんだんに使用された3階部分には新たに中門がつくられたことで、入退園時の来園者の目を楽しませています。なにより、木に囲まれた環境で研究ができることで、研究員のモチベーション

も上がっているようです。

植物研究交流センターの1階部分では、実際の研究風景を見学できます。子どもたちが簡単な実験や観察を体験できる『キッズラボ』と呼ばれるスペースもあります。壁面にCLTが使用された木に囲まれた空間で過ごすことで、子どもたちの心に自分の生まれ育った高知県の木や植物への関心が生まれ、大事にする心が育まれていくのでしょうか。

わくわくする空間

「植物研究をひとつのツールと捉え、さまざまな方たちに活用していただける施設でありたい。来園された方たちが語らい、交流する施設になれば嬉しいです。」と話す、川原園長は県民にとってオープンな施設を目指しています。

木を活用することにより、この新たな施設が、植物の研究だけでなく来園者の交流を深めることに大きく貢献していく今後に期待が集まります。



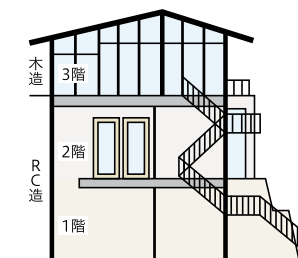
3階がエントランス。右手には『牧野ミュージアムショップ サクラ』。



『キッズラボ』から未来の牧野博士が生まれるかも？

高知県立牧野植物園 川原信夫園長

高知県の植物資源をいかに有効活用していくかという研究をしっかりとつづけていくことはもちろん、植物の研究結果や面白さを伝えることで、植物園に対する興味をもっていただければすごく嬉しいです。子どもたちにとって、高知県産の素材の良さを知ってもらい、木や植物を大切にする心を育むきっかけになる施設でありたいと考えています。



建物概要

- オープン／2023年5月
- 設計・監理／細木建築研究所
- 施工／岸之上・旭ブロック特定建設工事共同企業体

未来の可能性を広げる木の建築アラカルト2



自然を感じながら食事が楽しめるレストラン。南園を見下ろす絶好のロケーションです。



ショップの壁面にもCLTが大活躍。



段々畑をイメージした外観。

高知県立牧野植物園

住所／高知市五台山4200-6
TEL／088・882・2601(代表)
開園時間／9:00～17:00(最終入園16:30)
休園日／年末年始(12/27～1/1)、メンテナンス休園(2023/10/30、11/27、2024/1/29、6/24、9/30、11/25)
入園料／一般730円(高校生以下無料)

<https://www.makino.or.jp/>



この日の取材の様子はこちらから
もりりんチャンネル



CLTとは

Cross Laminated Timberの略。ひき板を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した大判の木質パネル建材のこと。柱や梁をなくし、空間を広く使用できるメリットがあります。



研究室のガラス越しに、来園者が実際の研究風景を見学できます。